

# 運 搬 具

運搬具は、荷物を安全に能率よく運べるように作られた道具です。運ばれるもののかたち、種類、重さ、距離や地形などによって、つかわれる道具はことなります。

運搬具には、運ぶものの条件などに合うよういろいろ工夫がこらされています。

## <工夫のいろいろ>



たかさ 56センチ 上部はば 19.5センチ

**おいこ**  
背おう道具で、坂道での運搬に適しています。重さに応じ、荷を支える爪木を移動できるようにしているものもあります。



たて、よこ 66センチ (正方形)

**もっこ**  
わらで作られたあみ状のもので、つなを棒にかけ、二人でにいます。にない手によって自由に土や石の量を加減できます。



上部直径 31センチ たかさ 34センチ

**手おけ**  
水など液体を運ぶときに用います。とっての中央部を半円形に切りぬき、持ちやすくしています。



ながさ 179センチ はば 6.5センチ

**てんびんぼう**  
肩になう道具で、棒からかけひもが落ちないように先端に木製の爪をつけています。

# ものを運ぶ

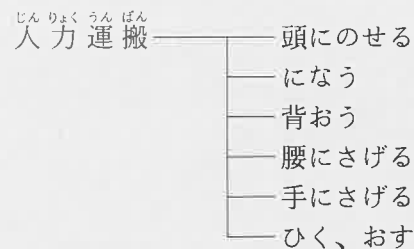
運ぶということは、ものをある地点からほかの地点へ人やものを移動することをいいます。

軽いものは手にもったり、腰にさげたりし、重いものになると、肩になったり、背おったりして運びます。

また、このような人の力による方法のほかにも、かつては、馬の背にのせるなど、家畜の力を利用したり、ほかけ舟、筏など風や水の流れといった、自然の力を利用して運ぶことも行われました。

明治時代に入ると、道や港が整備されることにともない、汽船・汽車・自動車などのように機械をつかった動力による乗物が現れ、人やものの行き来がますます盛んになっていきました。

## (運搬の方法)



畜力運搬 — 馬、牛など

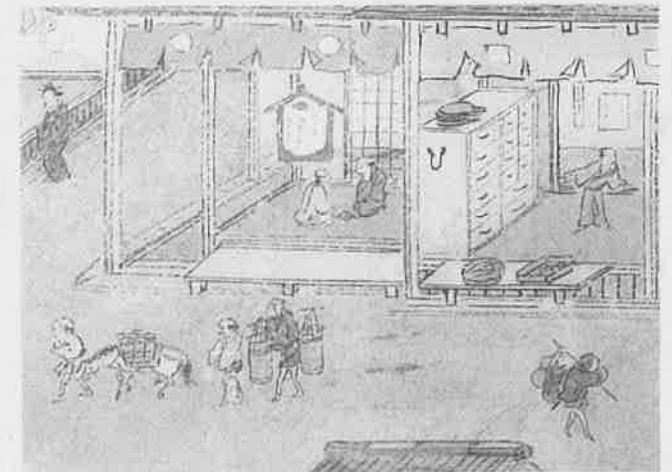
自然力運搬 — ほかけ舟、筏など

動力運搬 — 汽車、自動車など

## 学習の手引

### 第21号

# はこぶ



江戸時代の運搬の様子  
「広島城下絵屏風」より 広島城所蔵

## 広島市郷土資料館

〒734-0015 広島市南区宇品御幸二丁目6番20号

TEL (082) 253-6771

FAX (082) 253-6772

# うんばんようす 運搬の様子

## 江戸時代

じんりよくうんばん  
人力運搬



### 頭にのせる

たらいを頭にのせて水辺に向かう女性。  
洗濯や魚売りなどに行くときこの方法で運びました。



### になう

かごをてんびんぼうにかけ、肩になっっています。  
野菜などを売り歩くときこの方法で運びました。



### 背おう

俵を一俵、背おって運んでいます。  
俵には米などが入れられていました。



### 手にさげる

手にさげて運んでいます。  
液体の運搬には、たるやおけがつかわれていました。



ちくりよくうんばん  
畜力運搬

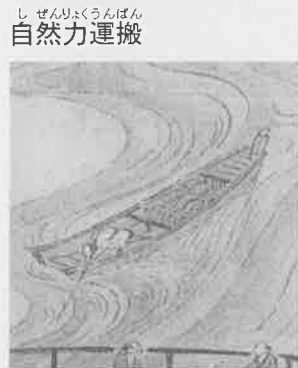
### になう

長い柄にかごをさげ、前後の二人が肩になっています。これは武士がのるかごですが、町人がのる簡単なものもありました。



### 馬の背にのせる

馬の背に荷が落ちないように鞍をかけ、左右に俵をのせています。重いものを遠くへ運ぶとき馬や牛がつかわれました。



しぜんりよくうんばん  
自然力運搬

### 舟で運ぶ

俵を舟にのせて運んでいます。舟は、さおやろをつかったり、また、ほに風をうけたり、水の流れにしたがったりして進みます。

このように人力と自然力をつかっています。

※江戸時代の文化年間(1804-1818)の作とされる「広島城下絵屏風」から、西国街道を歩き来する人々の運搬の様子をうかがうことができます。

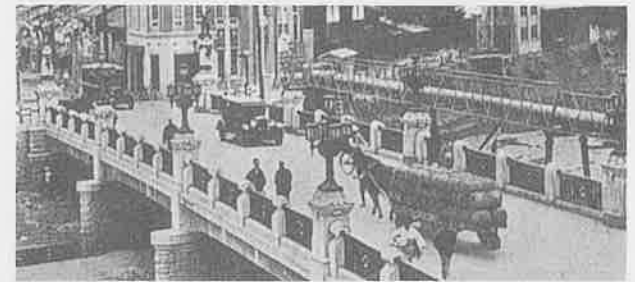
## 明治以後



明治初期の運搬の様子(橋本町)

風呂敷を背おった人やてんびんぼうをになっている人のほかに、荷車や人力車などが現れています。  
荷車は、江戸時代、大都市などではつかわれていましたが、広島などの地方では幕府からつかうことが禁止されていました。

『広島諸商仕入買物案内記』より 小谷一枝氏所蔵



昭和初期の運搬の様子(猿猴橋)

荷馬車や自転車にまじって、動力を利用した乗用車が走っています。

荷馬車は貨物自動車の利用が進むにつれて、やがて姿を消していくことになりました。

「広島名勝絵巻書」より 広島市公文書館所蔵